

発議第6号核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加を求める意見書について賛成の討論に参加いたします。

既に野田市議会においても、被爆国として日本政府に核兵器禁止条約への参加を求めて意見書が提出されてきました。残念ながら採択はされておりません。全国的には地方からこれに思いを同じくする意見書が出され、この意見書にあるように659の議会が採択している現状があります。

さて、広島サミットの核軍縮文書、広島ビジョンは核抑止力を正当化し、被爆者からは失望の声が相次ぎました。あれだけ悲惨なことが起こった広島で、わざわざ核による脅しにお墨つきを与えるような恥知らずなことをやったと言わざるを得ないと、東京外国語大学名誉教授、西谷修氏のインタビュー記事が先日18日の東京新聞に掲載されていました。米国の核兵器による核の傘も日本の抑止力の一つであり、互いに軍事力を競い合う安全保障のジレンマに陥っていると言えます。この核の傘下により、自国の多くの犠牲より日米安全保障が優先されており、戦後78年で戦争体験者が少なくなり、被爆者が自分たちを最後にとの思いの声が届きにくくなっていることが心配されます。

また、今週19日には、岸田総理が核兵器のない世界実現に向けた会議体の新設の表明を国連総会の一般討論演説で行ったとの報道がありました。核軍縮を前面に打ち出したとあります。であればなお、核兵器禁止条約締約国会議に、オブザーバーとしての参加する選択肢につなげるべきだと考え、意見書に賛成いたします。